

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題
平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもる
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA1・2

JAN/FEB. 2009

www.ywca.or.jp

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
【四谷オフィス】
〒160-0008 新宿区三栄町6-12 2F
Tel. 03-5367-1872 / FAX 03-5367-1873
E-mail: office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価 1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)



神戸 YWCA

ソウルYWCAとの協働に向けて

ソウルYWCAとの関係は、1989年にソウルY会員の金孝貞さんが、神戸YWCAの当時の日本語学校へ留学して来たことがきっかけで始まった。帰国後、金さんはソウルYのスタッフとなった。以来、神戸YとソウルY間で青年レベルの交流が続いていたが、1995年震災の年を最後に、交流は途絶えた。しかし、3年前神戸Yで韓国語スピーチコンテストを開催したことをきっかけに交流が再開。近い将来、何か協働できることはないかとソウルYより誘いを受け、お互いのYの活動をパワーポイントで学び始めた。

今年3月にはスピーチコンテストに、審査員としてソウルYから国際協力委員長が同委員・スタッフと来訪。その3名と神戸Yの会員で話し合いをもった。共通の関心事は「平和」だが、すぐに協働プログラムを企画するのは難しい。まずは往来しつつ、お互いをよく知ることから前進しようということになった。今年度は、合同祈禱週時、神戸Yへの来訪が決定した。4月には、ソウルYで「日本を知る会」が結成され、神戸Yでは「ソウルYとの協働準備プロジェクト」を立ち上げ、6月にスタートした。

プロジェクトでは、受入れの準備、公開の日韓歴史学習会企画、日韓Y関係史を「日本YWCA100年史」を用い、自主学習会も持った。準備を進めてい上で、双方Yの考え方の違い、日本と韓国の文化相違の壁に何度か衝突したが、励ましあったり、韓国人メンバーが、ソウルへ電話をかけてくれ、壁を低くし、懸け橋となってくれた。

11月7日～11日の来訪中、合同祈禱週プログラムのとして、人権をテーマに双方Yで「共なる集会」をもつこと、お互いに学習してきたことを共有すること、今後の方向性を話し合うこと、心のもった歓迎会をすること、ホームビジットの機会を提供することを決め、その他は、ソウルYの要望に応え、史跡めぐりをしてもらうこととなった。

「共なる集会」において、神戸Yからは、野宿者が生まれる日本社会の構造と実情・グループの活動・野宿者の人権について「夜回り準備会」が報告した。韓国にも同様の問題がある。ソウルYのメンバーも非常に関心を示し、質問が続いた。問題を双方Yで共有でき、みんなの熱い思いが伝わってくるこの時間が印象的だった。

来訪初日まで、気持ちに少し温度差があったように感じたが、時間を共有していくにつれ、心に通じるものがわいてきたようだ。今回、往来時に、平和に関するプログラムに参加しようということ、次年度は、神戸YがソウルYを訪問することが決まった。近い将来に向け協働できることを模索しているが、今回の訪問が、平和の種を蒔いたことには間違いない。今回、会員だけでなく、会員の友達・家族、事業部のヘルパー、Yの利用者、他地域YWCAの会員まで、想像以上の人々の協力と寄付を得られたことには感謝だったが、それ以上に異なるものを理解する気持ちが双方に深まったことが大きな収穫だった。

神戸YWCA 松浦裕子

特集 環境と原発

原発で地球温暖化を防げるのか? 他に問題はないのか?

「温暖化防止に原子力発電を」「原発は地球に優しいエネルギー」と政府や電力会社は宣伝していますが、本当にそうでしょうか? 今月号は環境と原発について考えます。

日本の核武装を懸念する声は科学者たちからも発せられていて、私も拙著(※)でそれを紹介したが、関連で触れたCO2問題について原稿依頼をお受けした。

地球温暖化防止に原発を、とは短絡的な考えである。CO2は植林で回復できても、放射能は何億年たっても消えず、生態系すべてに影響を受けていく。原発はまた、増設すればするほど

ど火力や水力も増設しなければならぬ構造となっている。省エネを考えると、小規模分散型発電に切り換えていかなければならないし、技術は確立されている。

原発は生じるエネルギーの3分の2を熱のまま捨てる。冷却にも高い膨大な温排水として昼夜ノンストップで捨て続け、温暖化を余分に加速する。100万kW級

の原発1基で毎秒70トン、2基3基ともなればさらに凄まじい量になる。私の住む静岡県沼津市の水量の大井川でさえ年平均流量が毎秒46トンであるから、これは相当に深刻な影響を与える。事実、以前に地球寒冷化が心配されていたとき、今「温暖化には原発を」と言っているCO2温暖化元凶説筆頭の学者が、そのときは「寒冷化には原発の温排水を」と述べているのが雑誌に残っており、滑稽な話である。

さて、今地球が温暖化しているのが事実だとしても、その主因はまだ完全に説明されていない。温室効果ガスの存在は認められても、それが温暖化の主因であるとはまだ証明がされていないのである。CO2温暖化元凶説に異議を唱える反証、すなわち太陽の黒点活動と年間気温変動の相関、また南極氷床コアの測定により気温の変化がCO2濃度の変化に先立つという観測もなされており、CO2は温かくなった海から溶け出した結果だという研究発表もある。

考えてみれば、産業革命も起こる前の10世紀から13世紀の頃、いまは水の世界のグリーンランドが、青々と緑が繁っていたのでグリーンランドと名付けられたのであった。地球は何度かこのような、暑くなったり寒くなったりを繰り返しており、

とにかくCO2しか言わない日本政府は何か不自然である。本気で温室効果ガスを減らしたいなら、景気対策で庶民に休日の高速道路料金をどこまででも1000円以下などとの案は出てこないはずである。

ところで、「原発ルネッサンス」という言葉を聞くと、原発の新規建設が続々と決まっている訳ではなく掛け声である。フィンランドの増設が挙げられるが、あれは縮小に向かう中、エネルギー多消費産業界が共同の自家発電電として認められたものである。アメリカは1979年のスリーマイル島原発事故以降1基も建設できなかったことにより、老朽化を迎える原発が輸出していき、このままでは核兵器を維持することが出来なくなるからである。フランスは日本は原発を売りたいとの魂胆が見え見えである。日本の場合はさらに、六ヶ所再処理工場と「もんじゅ」を無理矢理動かそうとするところから、この二つの施設を経て取り出される99%以上純粋なスーパー兵器級プルトニウムが狙いである。これは超小型戦術核を完成させ、小型ミサイルに搭載すればリーダーにもかならない。アメリカは日本とこの材料を共有し、日本に核兵器保持をも認めることにより、中国に脱毛を効かせたいの

ではないだろうか。既に純粋プルトニウムの最終抽出工場RETF(リサイクル機器試験施設)も東海村に完成された。知らぬは国民ばかりである。本格運転を目指す六ヶ所再処理工場は、アクティブ試験の現在でさえ多量の放射能を海に空に流し始めた。いまなら間に合う。若手や宮城の漁業者たちも参加し放射能を海に流さないで2000人のデモ行進が東京で繰り返されても、なぜかメディアはこれを取り上げない。これは原子力空母の横須賀基地母港化反対の1万3000人へののはるデモを放映しなかったのと同様、上からの強い圧力を物語っている。文獻調査だけで年10億円(を2年間)という高額で候補地を釣る高レベル廃棄物問題も、何万年と管理が必要で、地震列島日本にはおおよそ無理。被曝労働者も42万人を越えた。これらは命の問題であり、脱原発の道へと舵を取らなければ、核拡散を防ぐことは出来ないばかりか、地球規模の公害を引き起こす。周囲の情報に流されず、未来に責任の取れるしっかりとした視点で、各人が持つことが必要である。

内藤 新吾



(日本福音ルーテル掛川・菊川教会牧師。「原子力行政を問い直す宗教者の会」世話人)

国連総会、劣化ウラン弾による影響調査を決議

第63回国連総会は12月2日、劣化ウラン弾による影響調査を求める決議を採択しました。これは昨年11月に続いて2年連続で、昨年反対だったオランダなどが賛成に回りました。決議案に賛成したのは日本を含む計141(昨年136)。反対は米英仏とイスラエルの4(同5)、棄権はロシアなど34(同36)。決議案は、劣化ウラン弾の使用が人体や環境に潜在的に有害な影響を及ぼすことを考慮し、(1)国連事務総長に対し、関係する国際機関に劣化ウラン兵器の影響に関する適切で完全な調査を実施させるよう要求する(2)加盟国、特に被害を受けている国が必要な調査を行うよう促す(3)2010年の総会の暫定協議事項に、劣化ウランを含有する武器・弾薬の使用に関する協議を含める一としていいます。(2008年12月3日毎日新聞より)

2007年の決議に基づき、潘基文国連事務総長によりまとめられた「劣化ウラン弾使用の影響」報告には、最大の被害国であるイラクからの意見の提出がなかったことは大変残念でした。日本YWCAは、2007年に開催された世界YWCA総会において、劣化ウランの放射能は女性の性と生殖に関わる権利を侵害し、子どもたちの健康を破壊するため、劣化ウラン兵器の脅威について、女性の関心を喚起し、その廃絶に向けて行動することを提案し、勧告として決議されました。今回、日本YWCAは、国連と日本で世界の動きについて12月10日付で世界YWCAに報告を送りました。

「協力ありがとうございました。賛助費(以下敬称略) 中栗津江 田中治子 尾崎裕美子 石崎喜子 横山順子 和氣まこと 小林貴久美 松本よ 西田和子 茨川光郎 茨川めぐみ 西島 黎 若井安子 常葉俊子 オリブの木の募金 片野志子 女子学院 国際協力基金「シンパチ支援」 横浜YWCA 国際協力基金「HIV/AIDS」 大阪YWCA パレスチナYWCA支援募金 渡辺華 田村三保子 横山由幸子 平塚YWCA 一般寄付 唐崎旬代 俵 恭子 実生律子 (2008年11月20日現在)



日時: 2009年3月7日(土) 14時開演
場所: 東京YWCA カフマンホール (御茶ノ水徒歩5分)
全自由席: 3000円
ピアノ: 有吉英奈 (プラハ音楽院でコチ氏に室内楽を師事)

ブラダ・コチさんは、チェコスロバキアの共産党体制下で兵役拒否を行い、2度投獄。アムネスティ・インターナショナルが良心の囚人として釈放呼びかけました。現在はプラハ音楽院で教授を務め、世界中で演奏活動を繰り返しています。コンサートの収益は日本YWCA平和教育資金に用いさせていただきます。

●チケットのご購入・お問合せは 日本YWCA ファンドレイジング委員会 (Tel 03-5367-1872)

なすすべきことを なさせたまえ

実生律子

新しい1日を迎えること自体何の違もないのに、1月1日の場合は格別の思いが加わるから不思議です。おそらくは、過ぎ行く1年の日々を省みて、数える喜びの数よりも悔いすることの多さに愕然とした思いを抱き、「新しい年こそどうか!」この言葉に大いなる希望を託したいと思うからなのでしょう。

あまり明るいニュースがないままに1年が過ぎ、気がつけば新自由主義による格差拡大ばかりがいよいよ顕著になりました。実態を伴わない経済商品を持って巨万の富を手にした人、またその破綻のゆえにさらに貧しく、構造的に劣悪な環境に追い込まれていった人。厚生労働省の最新の公表によると民間の事業所で働く労働者のうち非正規社員が37・8%を占め、前回は3・2ポイント上回りました。また日本の植民地支配と侵略を反省した村山談話を全面否定する田母神俊雄前空幕長の主張に、毅然とした態度で反論することのない政府の対応。偏狭な国家主義的言論がこの10年あまりにも強くなってきたその中で田母神氏の登場は見過ごしてできない状況です。衆議院では国民の信を問うていない政権が3代も続いています。これは何を意味します。新しい年を迎えて遠くから、政権をかけた衆院選が行なわれると予想されます。真摯な政策論争と心に響く言葉(今まではあまりにも貧弱だった)に耳を傾け、大切な一票を行使しようではありませんか。

「ああ、君たち決ってこの世を恐れてはいけないうの世だって。素晴らしいことを行なえばいいの世だって素晴らしいの世になるのだからね。」「そうですね。確かにそうだね。」「ドストエフスキエー作「カラマゾフの兄弟」の中の青年アリョシヤと少年たちの希望にあふれた真実のやり取り。このときから130年を経た今、この日本で私たちがまた、然りと、確信できるよう、「なすべきことをなさせたまえ」と心から祈ります。(日本YWCA副会長)

*危険でも動かす原発(1冊) 200円 連絡先 FAX: 03-7-22-7760 内藤

「日韓ユース・カンファレンス2008」開催

率直な対話を通して



「恐れるな。見よ、すべての民にあたえられる大きな喜びをあなたに伝える。きよダビデの町にあなたのために救い主がお生まれになった。このかたこそ主なるキリストである」。

キリスト教の暦では、新年はアドベントからです。すると新年はもう始まっています。それでも1月を迎え新しい出発を望みます。新しい出発に大切にしたい言葉があります。YWCAに関わると「キリストはすべての民のために来た」という救い主の誕生を告げる言葉が原点にあると感じます。救い主キリストの存在を考えたことのない人も「喜びの知らせ」を受け取る対象です。キリスト誕生の知らせを聞いた羊飼いは、町の城壁の外に暮らす人々で、多くの人々が存在を普救考えもしないような人々。その羊飼いは、何も出来ない乳飲み子が救い主だと聞かされるのです。小さく弱くまだ人として教えられないほどの存在が、すべての民を救う方だと告げられます。それは、忘れられそう弱い人々や、未だ理解されない闇の中にある人と共に救い主は生ききく下さるとの「大きな喜び」のしるしそのものです。私たちの歩みも、すべての人々に開かれますように祈ります。

築まり子 (日本キリスト教団無任所補教師・札幌YWCA会員)

今年の日韓ユース・カンファレンスは、紅葉が美しい韓国YWCA富川ウイロー・キャンパス(富川市 韓国)で10月31日〜11月3日に行われました。1993年から始まった日韓ユース・カンファレンスは、今年で11回を迎えます。第1回カンファレンスから一貫して、日韓の若い参加者たちは両社会が共通に抱えるその時の問題を共に考え、話し合い、行動してきました。今年も、昨今ニュースなどで取り上げられることが多くなっている、インターネットの問題と、それにまつわる女性の権利について学び、取り組みました。インターネットの利便性と社会への貢献が評価される一方で、犯罪や人権侵害といった真の問題は、韓国でも日本と同様に深刻です。プログラムは、参加者によるプレゼンテーション・グループディスカッション・専門家の基調講演・専門施設への訪問などで構成され、3泊4日の最終日には結論を導き出すという、完全参加型です。



2008年9月10日
内閣総理大臣 福田康夫様
文部科学大臣 鈴木恒夫様
日本YWCA 会長 石井摩耶子
総幹事 川端 国世

改訂学習指導要領 中学校編・社会科 解説書の「竹島(韓国名:独島)」の 記述の削除を求める要望書

世界YWCAは国連の経済社会理事会の諮問NGOとして、韓国をはじめ125カ国にネットワークを持つ国際団体です。その一員である日本YWCAは、日本政府がアジア太平洋戦争での加害責任に対して謝罪と補償を行い、日本国憲法第9条を世界に広め、世界の市民が暴力におびえることなく、平和の内に生活できるようにするのが役割であり責任だと考えます。特に東北アジアの平和と安定は最重要課題であると考えます。

このたび、日本の文部科学省が韓国民の強い反発と外交問題が起こることを認識しながらも、改訂学習指導要領の中学校編・社会科の解説書に、竹島(韓国名:独島)について初めて明記しました。このことによって日韓両国の関係を不安定にし緊張をもたらしていることに、強い危惧を覚えます。そして、このように日韓の間で見解が対立し、政治的・外交的にも簡単には解決できない問題を、中学校教科書に一方的立場からあえて記述し、学校で教えることには反対です。日本政府の役割と責任は外交において竹島の問題を日韓両国の間に緊張関係をうみださないように、世界が認める平和的解決に導くことだと考えます。

そこで、私たち日本YWCAは、改訂学習指導要領の中学校編・社会科の解説書から「竹島」の記述を削除することを強く要望します。

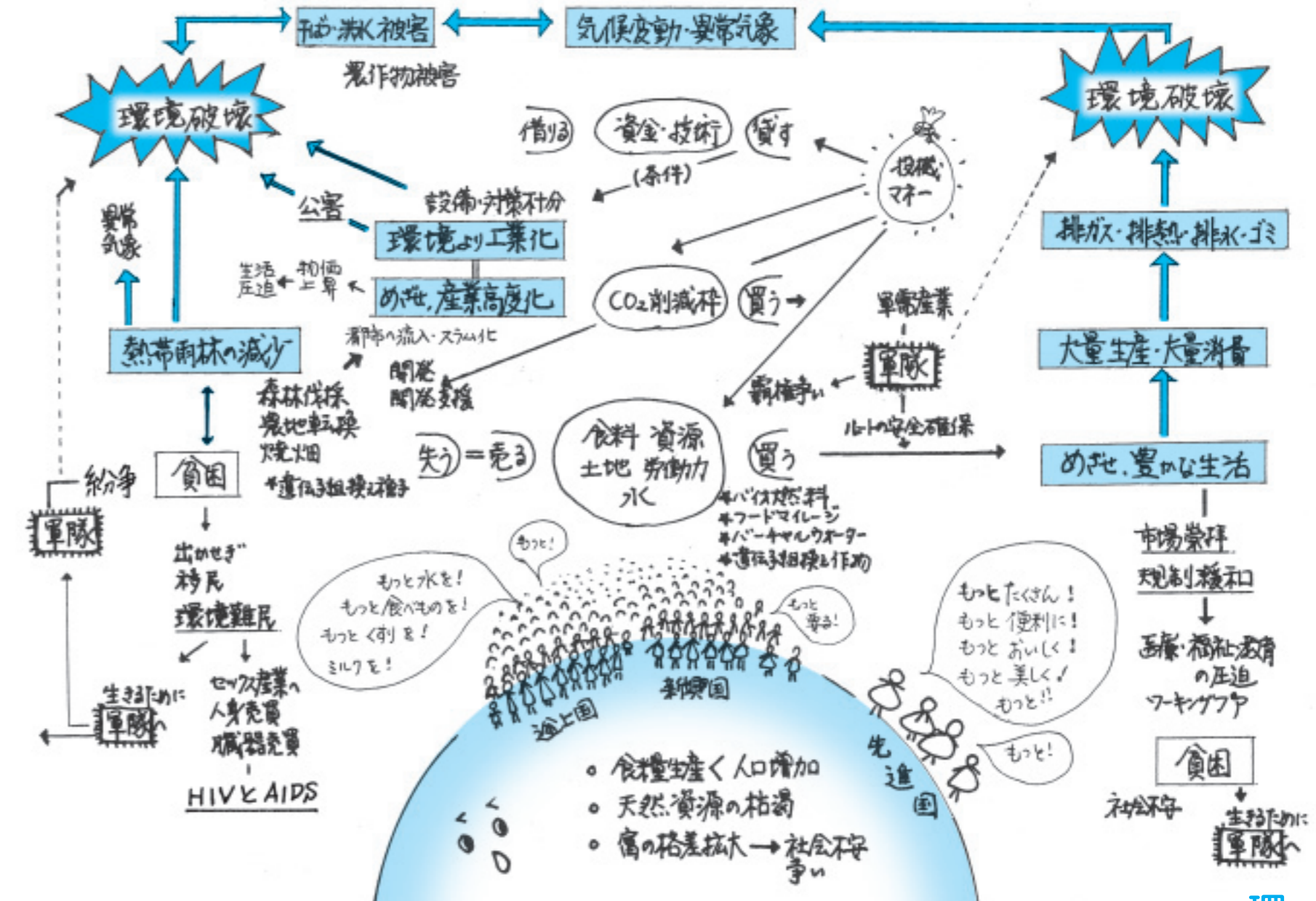
注・韓国YWCAと友好をもって協議するにあたり、日本では竹島と呼ばれるこの島を、実行委員会では韓国名の独島と呼んで協議ののぞみましたが、この島を韓国のものと断定しているのでも、日本のものと断定しているのでもないことをお断りいたします。

「一緒に考えたい」
私は語学が苦手、カタコトの英語とホテイランゲージだけで会話をしていますが、韓国のユースとは冗談が言い合えるほど仲良くなりました。そんな話を聞いたのは、韓国ユースが私に「一緒に考えたい」といって、私に彼女たちが考えている問題を、一緒に考えたいと心から思うようになり、私もその思いを韓国ユースは受け止めてくれました。ただの楽しい会話のやりとりだけではなく、お互いの真剣な思いを伝え合った上で、真実に交流を深めることができ、私はそのことがとてもうれしかった。

大きな達成感と自信
独島に関するプレゼンテーションでは、日本側は「日韓のユースでいつか自然豊かな独島と一緒にいきたい。私たちは

Peace Makerであり、希望にみちた未来をさあめたい。希望に満ちた未来へ向けて対話を続けていく」と伝えました。韓国YWCAのプレゼンテーションは、独島は韓国領土だがこの問題が日韓の政治・経済関係を悪化させているため、共同の合意点を導き出したいというものでした。

この貴重な体験から私は、正直な気持ちで話し出すことを怖がらないことが人と人をつなぎ、これが大きな力となることを多くの人に伝え、また今後自分の恐怖心に勇気を持って向き合い、正直な気持ちで対話を続けることが、韓国の参加者に約束した「希望に満ちた未来へ向けて前進すること」であることを確信し、一歩を踏み出します。 東京YWCA・仙台YWCA 木村真理子



環境破壊を
生みだすものは?
CO₂削減のみが地球の環境破壊を解決する力かのように言われますが、そうでしょうか。CO₂濃度の上昇は環境問題の一部に過ぎません。そしてそれは私たち先進国の「より豊かな生活」指向が根元にあるのです。大量生産・大量消費の結果として生じたのが、大量のごみ・排ガス・排熱・汚染排水です。節度なき経済活動の結果起こった気候変動・異常気象の影響は、発展途上国の人々の生活により強く及びます。また、市場競争に勝つために途上国から資源・食糧・労働力などを安く買ってコストを下げることは、途上国の発展を妨げ、貧困をひどくします。開発等によって熱帯雨林が大きく減少していることは、異常気象の原因のひとつとも言われます。人口増加の対策や産業振興を目指す途上国・新興国では、工業化を優先して環境設備対策が後回しになり、公害を引き起こしています。環境破壊の問題の背景は先進国・新興国・途上国それぞれ異なりますが、繋がっているのです。

子どもたちに負の遺産を残さないために
- 大間原発建設反対の取り組みから -
函館YWCA

大間原発に建設許可が下りるのも間近と思われた08年12月、建設・稼働を阻止するにはもはや訴訟しかない、「大間原発訴訟」の会が発足しました。函館YWCAも賛同団体として共に活動することを決めました。訴訟には今まで以上に大勢の賛同が必要であるために、週末ごとに大森浜で「大間原発いらぬいっしょ」のプラカードを掲げて、通行する車に訴えたり写真・真実・繁華街でビラを配るなどのPR活動が「大間原発いらぬいっしょ」が中心になって行われてきました。そのなかにもあってか「大間原発反対署名」は全国から万筆を超える数が集まりました。またこの間、函館YWCAでは独自企画で大間現地訪問・訴訟に関する学習会などを積み重ねました。

大間の原発建設予定地内に暮らす、ずっと変わらず原発建設に反対し続けてこられた故郷谷あさ子さんはこう言いました。「自然を大事にして、この海を守っていけば、将来何があっても生活していける。大金なんかいらぬ」。大間原発を止めようとする私たちの活動にとって、これからは困難な状況は続くと思いますが、子どもたちに負の遺産を残さぬために、このあさ子さんの言葉を胸に刻んで原発反対の声を上げ続けていこうと思います。 函館YWCA 丸山泉

